



2019年9月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年8月1日

上場会社名 BEENOS株式会社

上場取引所 東

コード番号 3328 URL <https://www.beenos.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼グループCEO (氏名) 直井 聖太

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 松田 久典

TEL 03-5739-3350

四半期報告書提出予定日 2019年8月8日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2019年9月期第3四半期の連結業績(2018年10月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年9月期第3四半期	17,561	4.6	76		62		129	
2018年9月期第3四半期	16,796	10.9	920	83.7	1,104	98.1	497	154.2

(注) 包括利益 2019年9月期第3四半期 383百万円 (%) 2018年9月期第3四半期 527百万円 (1.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円銭	円銭
2019年9月期第3四半期	10.72	
2018年9月期第3四半期	40.76	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
2019年9月期第3四半期	16,345	8,966	45.0	616.31
2018年9月期	15,691	9,791	52.4	673.52

(参考) 自己資本 2019年9月期第3四半期 7,357百万円 2018年9月期 8,218百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
2018年9月期		0.00		13.00	13.00
2019年9月期		0.00			
2019年9月期(予想)				13.00	13.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 2018年9月期の配当原資には、資本剰余金が含まれております。詳細は、後述の「資本剰余金を配当原資とする配当金の内訳」をご覧ください。

3. 2019年9月期の連結業績予想(2018年10月1日～2019年9月30日)

2019年9月期の連結業績予想につきましては開示を見合わせており記載しておりません。詳しくは、P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年9月期3Q	12,332,600 株	2018年9月期	12,332,600 株
期末自己株式数	2019年9月期3Q	394,747 株	2018年9月期	129,678 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年9月期3Q	12,053,258 株	2018年9月期3Q	12,215,334 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

資本剰余金を配当原資とする配当金の内訳

2018年9月期の配当のうち、資本剰余金を配当原資とする配当金の内訳は以下のとおりです。

基準日	期末	合計
1株当たり配当金	13円 00銭	13円 00銭
配当金総額	158百万円	158百万円

(注) 純資産減少割合 0.030

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、グローバル領域において新しい市場を創造するために、コアバリューであるEコマース事業の「ノウハウ・データ」、インキュベーション事業の「世界中の投資先ネットワーク」をかけあわせて、日本と世界を繋ぐ「グローバルプラットフォーム」を目指し事業展開をしております。

今期は、Eコマース事業セグメントにおいては、事業基盤が確立している既存事業のリソースを新規事業にシフトし、今後の柱となる事業の育成に注力しております。特に「パーティカル構想（カテゴリーごとに顧客ニーズにあわせた付加価値の高い特化型ショッピングサイト）の複数サイト展開」・「物販アービトラージ（世界中から商品情報を取得し世界中の消費者に価格比較情報を提供）の開発」・「日本の商品やコンテンツの海外展開のマーケティング支援」などの新規事業創造を積極的に推進することとしており、2019年3月にはパーティカル構想の第一弾としてファッション領域に特化した越境EC事業の新会社を設立しました。またインキュベーション事業セグメントにおいては、2020年3月末までに含み益の20%の投資回収を行い、ポートフォリオの入れ替えを図るという方針を掲げております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は17,561,111千円（前年同期比4.6%増）、営業損失は76,355千円（前年同期は営業利益920,335千円）、経常損失は62,689千円（前年同期は経常利益1,104,093千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は129,223千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益497,932千円）となりました。

なお、当社が経営指標として重視している流通総額につきましては、当第3四半期連結累計期間では376億円（前年同期比9.0%増）となりました。

事業のセグメント別の業績は、次のとおりであります。

①Eコマース事業

1-1 クロスボーダー部門

「海外転送・代理購入事業（FROM JAPAN）」におきましては、英語対応のためのカスタマーサポート拠点の新設などによりユーザーからの問い合わせ対応の一層の迅速化と満足度の向上を図るとともに、ユーザーに安心してサービスをご利用いただくために代理購入サービス「Buyee」に国際送料の事前確定機能を実装するなど、積極的にユーザビリティの向上に努めました。また、代理購入手数料の無料キャンペーンなどの販売促進施策の効果に加え、オペレーション効率化のためのシステム導入やコスト削減に繋げるための先行投資による利益体質の強化に努めた結果、当第3四半期会計期間の流通総額、売上高、営業利益は過去最高となりました。

「グローバルショッピング事業（TO JAPAN）」におきましては、ヤフー株式会社が運営するヤフオク！とのデータ連携による販売チャネルの拡大や、食品の取り扱い開始など取扱カテゴリーの拡充に取り組みました。また基幹システムの全面入れ替えにより、ユーザビリティの向上や新しいサービスの提供が可能となり、これまで実装していた国際送料の事前確定機能に加え、関税の事前確定機能をリリースしました。さらに、第1四半期に発生していた検索エンジンのアルゴリズム変更によるSEO集客減少の影響は改善が進み、損益は改善傾向にあります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,698,590千円（前年同期比7.8%増）、営業利益は539,753千円（前年同期比3.2%増）となりました。

1-2 バリューサイクル部門

「ネット買取販売事業」におきましては、買取面で「まとめ売り・手軽さ」を訴求した広告宣伝やリピーター施策などにより、買取金額は前年同期比で20.3%増加しました。販売面では、暖冬による重衣料の売上不振に加え、自社販路「ブランディアオークション」の販売力強化のためのテレビCM等の投下が期待どおりの効果をあげられなかったことや、5月の大型連休期間中に増加した買取に人員を優先配分したことで出品が遅れたことなどにより、売上高は前年同期比で2.3%の減少となりました。また、高価格帯商品へのシフトによる売上総利益率の低下により赤字となりました。一方で、ブランドバッグなどをレンタルできる「ブランディアレンタル」や、高価格帯のリユースアパレルを安心して購入して頂くための「試着サービス」などの新規サービスの拡充を積極的に進めております。

「酒類の買取販売事業」におきましては、社名およびCI変更に合わせたオフィシャルサイトの全面改修が完了し、

UIが改善されたこと、買取価格を業界最高値とすることを基本方針に据えたことで、買取申し込み件数が増加しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は9,913,863千円（前年同期比6.9%増）、営業損失は204,486千円（前年同期は営業利益320,801千円）となりました。

なお、酒類の買取販売事業を行うJOYLAB株式会社（旧社名：株式会社帝国酒販）は、2018年4月から当社の連結の範囲に加わっております

1-3 リテールライセンス部門

「エンターテインメント事業」では、新規のアーティストの商品販売が好調に推移したことに加え、既存のアーティストの大型イベントの開催等により売上高、営業利益は順調に増加しました。また、大手アニメ制作会社の公式ECサイトの運営を受託するなど、新たなコンテンツを開拓しております。「商品プロデュース・ライセンス事業」では、ポケモンコスメシリーズの販売が好調に推移したほか、フレグランスボディケアブランドSWATi（スワティー）は、新商品のリリースなどにより認知度の向上を図るとともにブランドイメージの刷新に取り組みました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,791,255千円（前年同期比11.2%増）、営業利益は107,489千円（前年同期比56.2%増）となりました。

Eコマース事業全体では、当第3四半期連結累計期間の売上高は17,403,708千円（前年同期比8.0%増）、営業利益は442,756千円（前年同期比51.5%減）となりました。

②インキュベーション事業

「投資育成事業」におきましては、新興国のオンラインマーケットプレイス企業やオンライン決済企業への投資と、日本国内のインバウンド消費関連市場のスタートアップ企業への投資を進めておりますが、今期は既存の投資先の中でも成長著しい企業への追加投資を積極的に進めており、東南アジアを中心にファッション・美容商品のオンラインマーケットプレイスを運営するZilingo（ジリング）などへの追加出資を行いました。

2019年3月末時点における営業投資有価証券の簿価は38億円、その時価評価額は254億円に拡大（2018年9月末時点における、簿価は28億円、時価評価額は159億円）しており、同年4月末に、2020年3月末までに含み益の20%の顕在化を進め、ポートフォリオの入れ替えを行うという方針を設定しました。この方針に基づき投資回収対象を選定し投資回収を進めており、本年6月には、設立初期から出資していたトルコのオンライン決済サービスを運営するIyzico（イージーコー）株式の全株譲渡について契約締結しております。この譲渡契約に伴う約定はトルコ金融当局の承認手続き完了後となることから当第3四半期連結累計期間においては未計上であり、売却益（約3.3億円）の計上は第4四半期以降となる予定です。※時価評価額は上場銘柄は市場価格、未上場銘柄は直近の取引価格にて評価した金額です。（当社が投資損失引当金を計上している銘柄については簿価にて評価）当該金額は、当社の試算に基づく金額であり、監査法人の監査を受けておりません。

「新規事業」におきましては、Eコマース事業で蓄積したビジネスノウハウと投資育成事業で構築した投資先企業群とのネットワーク等を活用し、「バーティカル構想」「物販アービトラージ」「国内商品・コンテンツの海外展開のマーケティング支援」の実現に向けた新規事業の創造に積極的に取り組んでおり、2019年3月には、株式会社ファッション・コ・ラボと共同で海外の消費者が日本のアパレルブランドの商品を簡単・便利に購入することができるファッションECモールを運営するFASBEE（ファスビー）株式会社を設立し、同年7月より海外120の国・地域の消費者に向けてサービスを開始しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は168,175千円（前年同期比75.3%減）、営業損失は233,633千円（前年同期は営業利益376,693千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①財政状態の分析

(i) 資産

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は16,345,043千円となり、前連結会計年度末と比べ653,881千円の増加となりました。

内訳といたしましては、流動資産合計が13,981,471千円となり、前連結会計年度末と比べ668,718千円の増加となりました。その主な要因は、増加要因として、営業投資有価証券1,006,838千円、商品880,903千円、受取手形及び売掛金362,278千円の増加、減少要因として、現金及び預金1,927,826千円の減少であります。

また、固定資産合計は、2,363,572千円となり、前連結会計年度末と比べ14,837千円の減少となりました。その主な増加要因は、繰延税金資産92,252千円の増加、減少要因として、のれん69,550千円、建物及び構築物（純額）43,922千円の減少であります。

(ii) 負債

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は7,379,027千円となり、前連結会計年度末と比べ1,478,913千円の増加となりました。

内訳といたしましては、流動負債合計が7,173,900千円となり、前連結会計年度と比べ1,481,573千円の増加となりました。その主な要因は、増加要因として、短期借入金1,065,800千円、預り金242,827千円、未払金236,836千円の増加、減少要因として、未払法人税等306,549千円の減少であります。

また、固定負債合計は、205,127千円となり、前連結会計年度と比べ2,660千円の減少となりました。その主な要因は、繰延税金負債15,502千円の増加、長期借入金19,380千円の減少であります。

(iii) 純資産

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は8,966,016千円となり、前連結会計年度末と比べ825,032千円の減少となりました。その主な減少要因は、自己株式の取得等380,532千円、資本剰余金158,637千円、為替換算調整勘定137,023千円の減少であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年9月期の通期の連結業績予想につきましては、インキュベーション事業において、売上（売却益）の発生時期及び金額を見積もり発表することが合理的ではないと判断していること、また新規事業への積極的な取り組みを重要戦略として計画しておりますが、その投資の時期や金額の規模については、機動的に判断していく予定であることから、業績予想の開示を見合わせております。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 追加情報

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,920,068	3,992,242
受取手形及び売掛金	812,851	1,175,129
営業投資有価証券	2,896,984	3,903,822
商品	1,840,210	2,721,114
未収入金	1,016,021	1,165,163
その他	843,394	1,048,393
貸倒引当金	△16,779	△24,395
流動資産合計	13,312,752	13,981,471
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	603,914	598,121
減価償却累計額	△205,702	△243,832
建物及び構築物（純額）	398,211	354,288
車両運搬具	9,512	9,606
減価償却累計額	△7,329	△7,253
車両運搬具（純額）	2,182	2,353
工具、器具及び備品	156,576	185,389
減価償却累計額	△97,647	△115,194
工具、器具及び備品（純額）	58,929	70,195
有形固定資産合計	459,323	426,837
無形固定資産		
のれん	351,469	281,918
その他	156,312	176,751
無形固定資産合計	507,781	458,669
投資その他の資産		
投資有価証券	844,765	830,975
繰延税金資産	129,508	221,761
その他	437,030	425,328
投資その他の資産合計	1,411,304	1,478,065
固定資産合計	2,378,409	2,363,572
資産合計	15,691,162	16,345,043

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	379,240	462,225
短期借入金	1,634,200	2,700,000
1年内返済予定の長期借入金	8,880	—
未払金	2,339,416	2,576,253
預り金	583,976	826,804
未払法人税等	369,568	63,018
その他	377,044	545,598
流動負債合計	5,692,326	7,173,900
固定負債		
長期借入金	19,380	—
資産除去債務	188,407	189,624
繰延税金負債	—	15,502
固定負債合計	207,787	205,127
負債合計	5,900,114	7,379,027
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,775,840	2,775,840
資本剰余金	2,701,215	2,542,577
利益剰余金	2,889,400	2,760,176
自己株式	△187,303	△567,835
株主資本合計	8,179,153	7,510,759
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△231,866	△287,913
為替換算調整勘定	271,630	134,606
その他の包括利益累計額合計	39,763	△153,307
新株予約権	21,406	40,314
非支配株主持分	1,550,724	1,568,248
純資産合計	9,791,048	8,966,016
負債純資産合計	15,691,162	16,345,043

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年10月1日 至2018年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年10月1日 至2019年6月30日)
売上高	16,796,196	17,561,111
売上原価	7,947,136	9,273,184
売上総利益	8,849,059	8,287,927
販売費及び一般管理費	7,928,724	8,364,282
営業利益又は営業損失(△)	920,335	△76,355
営業外収益		
受取利息	277	34
持分法による投資利益	22,521	22,930
助成金収入	28,748	9,177
受取和解金	—	14,193
投資事業組合運用益	140,404	2,402
その他	23,477	19,243
営業外収益合計	215,428	67,982
営業外費用		
支払利息	11,325	8,810
為替差損	13,874	42,363
支払手数料	5,019	2,663
その他	1,450	478
営業外費用合計	31,670	54,316
経常利益又は経常損失(△)	1,104,093	△62,689
特別利益		
関係会社株式売却益	24,187	—
特別利益合計	24,187	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,128,280	△62,689
法人税、住民税及び事業税	401,690	214,486
法人税等調整額	129,601	△87,025
法人税等合計	531,291	127,460
四半期純利益又は四半期純損失(△)	596,989	△190,149
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	99,057	△60,926
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	497,932	△129,223

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年10月1日 至2018年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年10月1日 至2019年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	596,989	△190,149
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△45,762	△56,145
為替換算調整勘定	△22,005	△129,724
持分法適用会社に対する持分相当額	△1,739	△7,200
その他の包括利益合計	△69,507	△193,070
四半期包括利益	527,481	△383,220
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	428,424	△322,293
非支配株主に係る四半期包括利益	99,057	△60,926

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2017年10月1日至2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	Eコマース事業				インキュ ベーション 事業	合計		
	クロス ボーダー 部門	バリュー サイクル 部門	リテール・ ライセンス 部門	小計				
売上高								
外部顧客への 売上高	3,430,532	9,273,512	3,409,377	16,113,422	682,088	16,795,511	685	16,796,196
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	222	—	515	738	—	738	△738	—
計	3,430,755	9,273,512	3,409,893	16,114,160	682,088	16,796,249	△52	16,796,196
セグメント利益	523,033	320,801	68,825	912,660	376,693	1,289,353	△369,018	920,335

(注) 1. セグメント利益の調整額△369,018千円には、セグメント間取引の消去△170,351千円、各報告セグメントに配分していない全社収益378,434千円及び全社費用△577,101千円が含まれております。全社収益は、主に当社におけるグループ会社からの受取手数料であります。全社費用は、主に当社におけるグループ管理に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2018年10月1日至2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Eコマース事業				インキュ ベーション 事業	合計		
	クロス ボーダー 部門	バリュー サイクル 部門	リテール・ ライセンス 部門	小計				
売上高								
外部顧客への 売上高	3,694,549	9,913,691	3,787,694	17,395,936	165,175	17,561,111	-	17,561,111
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	4,040	171	3,560	7,772	3,000	10,772	△10,772	-
計	3,698,590	9,913,863	3,791,255	17,403,708	168,175	17,571,884	△10,772	17,561,111
セグメント利益又 は損失(△)	539,753	△204,486	107,489	442,756	△233,633	209,123	△285,478	△76,355

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△285,478千円には、セグメント間取引の消去△390,239千円、各報告セグメントに配分していない全社収益669,635千円及び全社費用△564,874千円が含まれております。全社収益は、主に当社におけるグループ会社からの受取手数料であります。全社費用は、主に当社におけるグループ管理に係る費用であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。